

武良霜伯先生選評



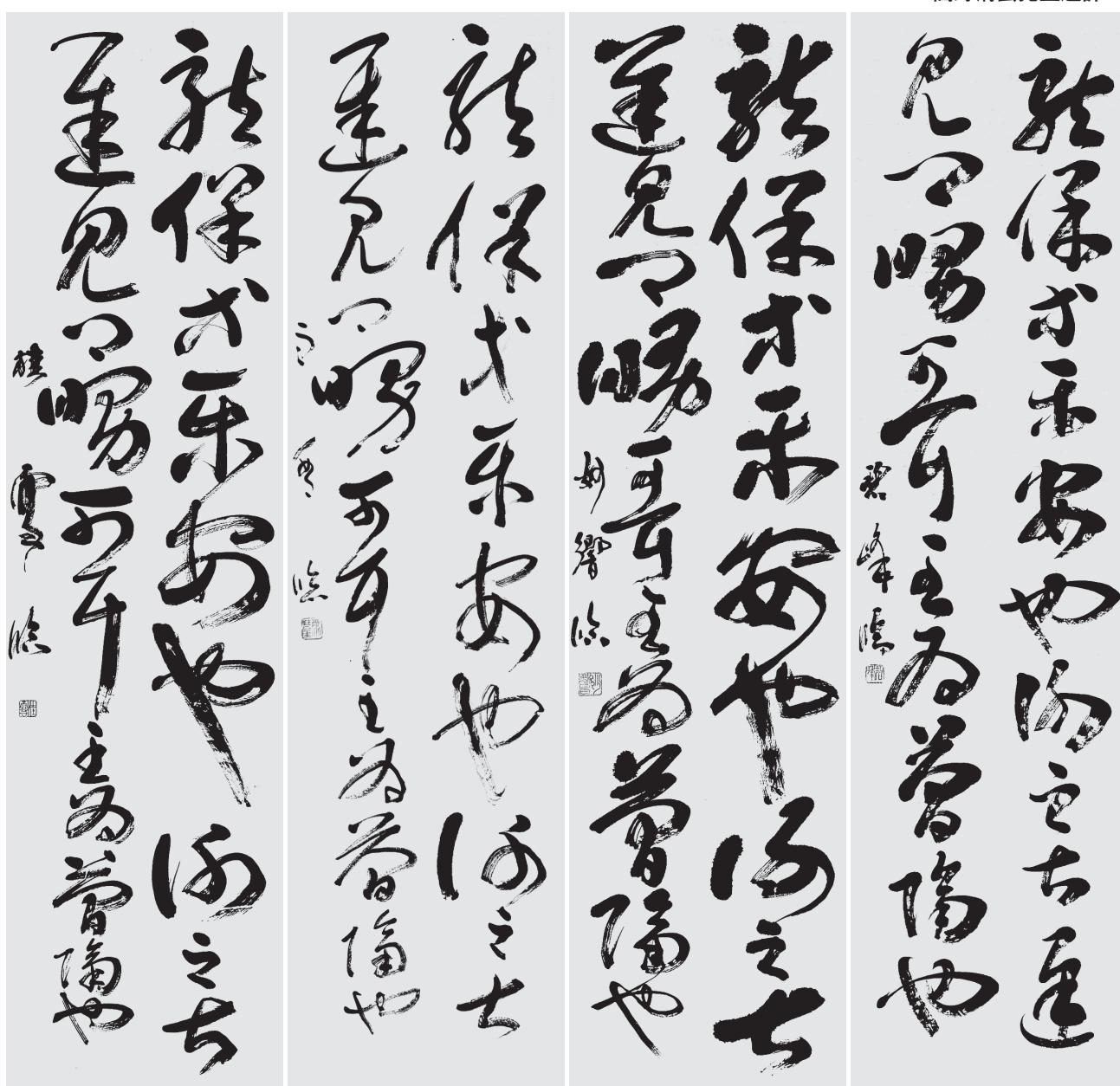
岩山香艸
墨量が良く載つてお、柔らかい線質を醸し出している。参考作品の雰囲気を良くとらえ、温かみのある厚い線質が開放感に満ちた、安定した作品です。

早川希久子
筆の開閉が自在で良く躍動している。縦横無尽に紙面を切つてゆく腕の動き、振幅の大きさ濃墨の強さが相俟つて、緊張感のある作品となりよく纏まっています。

吉田郁江
遠勢の大きさ、気張らず軽快な運筆は、観るものに安心感と和らぎを与える。空間を遊ぶ線は無駄がなく暢びやかさは流石です。研鑽の高さが窺える作品です。

薬丸順子
腕を思いきり振り回して紙いっぱいに書き放つており、大胆な動きと、不安定な筆の行き方にスリルと小気味良さがある。活き活きとした、強い意志を感じます。

高野清玄先生選評



藤井碧峰

推選

原帖を良く観察して自己のものとして消化し臨書できている。王羲之の書としての品格も高く章法が素晴らしく落ち着いて正面を向いている。正に龍保は平安也。

谷澤妙響

推選

大胆な運筆で書き上げられており筆者の生命の躍動が伝わってくる。身内を気づかう気持ちがこれほど強いものか。直線を活かした表現にも魅了される快作だ。

森川雨琴

推選

いつもながら瀟洒な雨琴ワールドに引き込まれる。龍保帖を修得され独自の料理をほどこし意臨的な表現をされた。力みなきリズムに乗り通貫した線はさすが。

金森桂雪

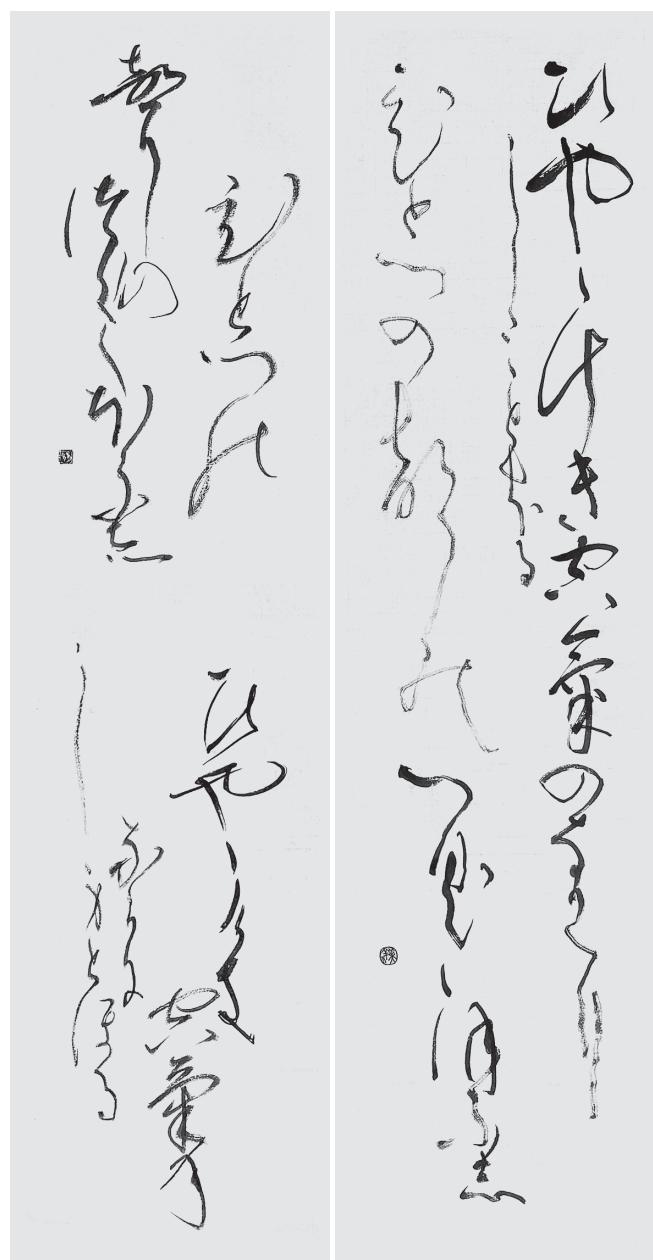
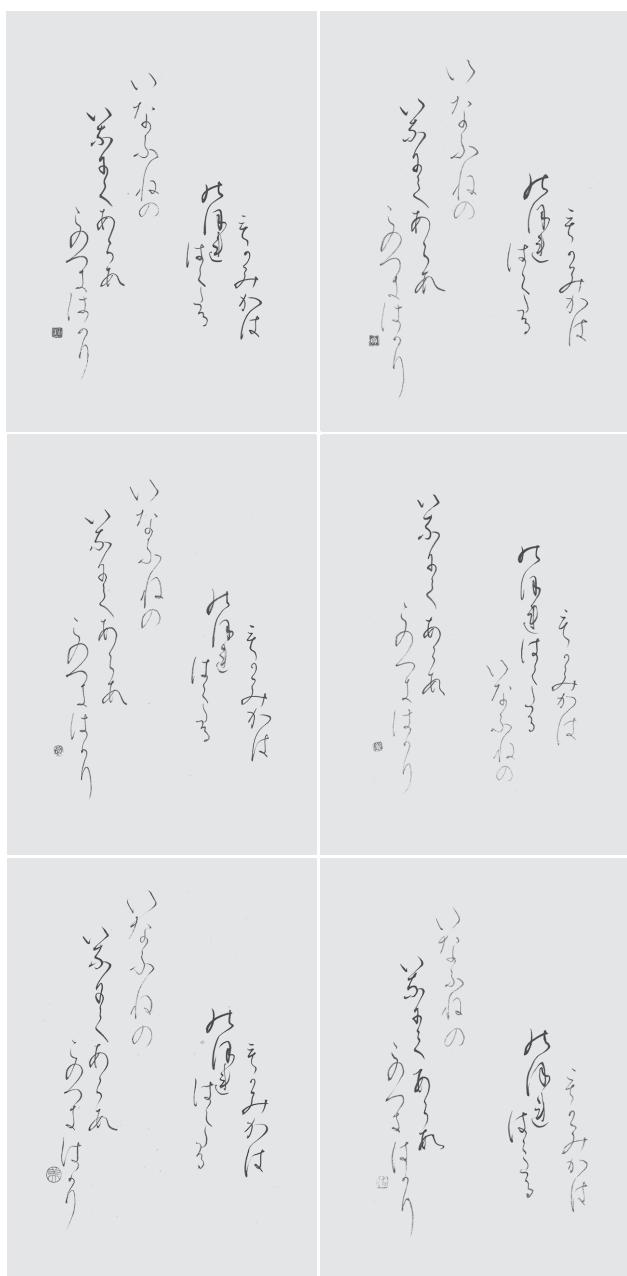
推選

鷗亭先生の参考作品を良く見て自分自身での作品に仕上げ事ができた。書き出しから「也」までの元気な生き生きとした運筆に対し二行目の軽いタッチが佳。

かな条幅・かな半紙最優秀作品 (10月15日締切分)

佐賀道子先生選評

露崎桂子先生選評



伊藤貞子 師範
墨彩美しく温かい。
筆線際立ち魅力的。
時にキリリと紙面に
にくい込む筆致は、
余白に響き趣深い。
醸し出される氣品
は、長年に亘り培
われてきた素敵な
持ち味ですね。

永田由美子 七段
筆管立ち凜と引締
まつた筆線で、墨
の推移美しく立体
感ある作。更に、
呼吸の深い運筆が
加味されると線に
ふくよかな趣が出
てくるでしょう。

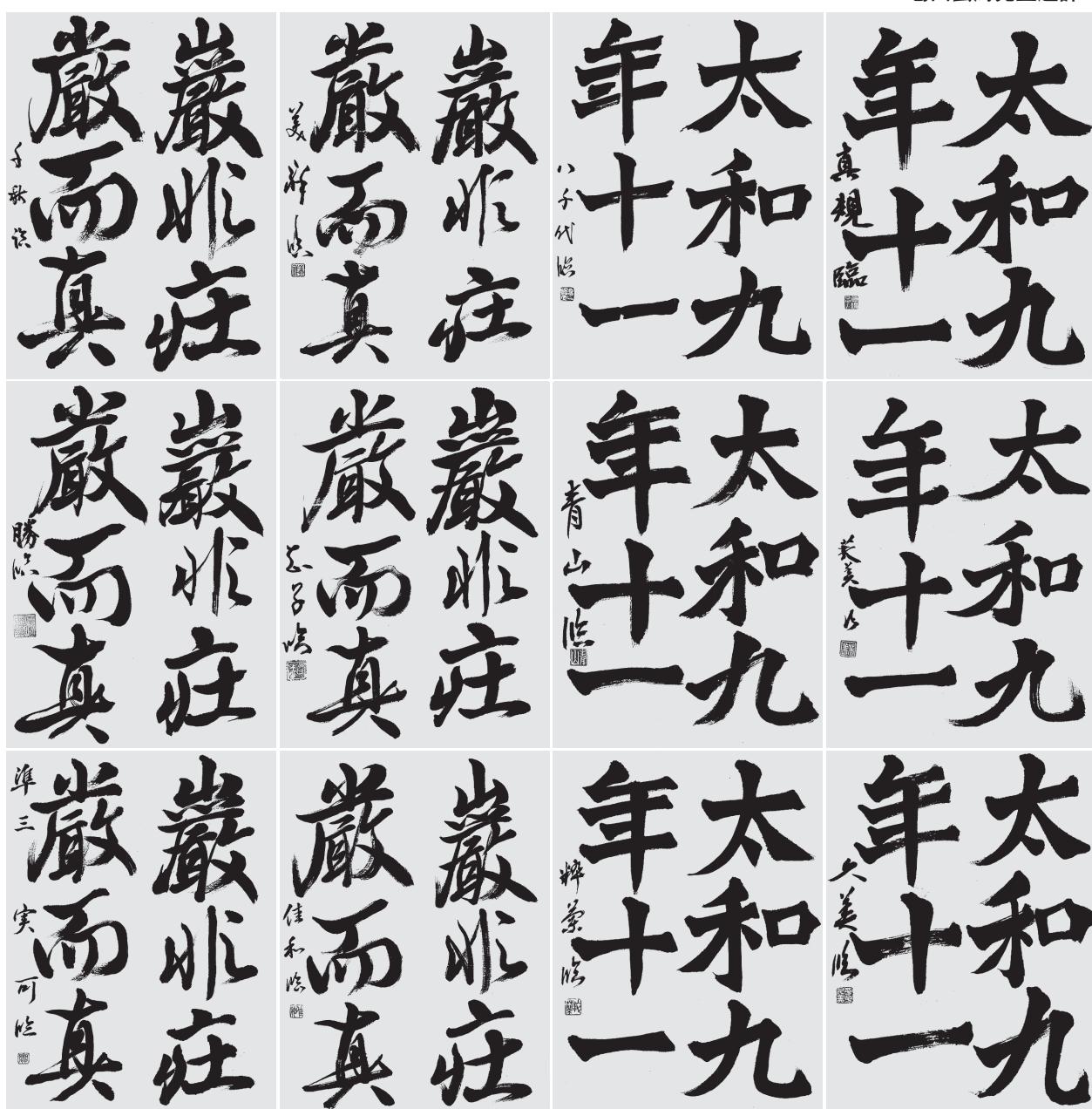
日浅尚子 六段
大らかな筆勢で古
筆の特徴を丁寧に
捉えています。墨
継ぎ箇所で墨量・
濃淡のメリハリが
出ると遠近ある
景色の美しい作に
なつたでしょう。

川上由美 準五
伸び伸びと明るい
清澄感ある作に惹
かれました。文字
の形はよく見てい
ます。今後は、行
の流れ・疎密の変
化・線の練度等、
更なる期待。

松田きぬ子 推選
勢いのある流れる様な筆線
が魅力です。二段のちらし
も変化に富み、筆者の樂し
さが伝わります。更に渴筆
部分が出ると作品の立体感
が増し、一つ上の作に。

富永美祥 推選
参考作品の流れ、呼吸をよ
く掴んで書かれ、安定感の
ある落ちついた作です。墨
色の変化も自然で良いので
すが、やや筆勢の変化が出
ると更に印象深い作に。

葛西玄濤先生選評



辻 千秋 準七
墨量たっぷりの温
かい線と速度を増
した運筆の切れの
ある渴筆が好対照
となり、変化の樂
しい作品となつた。
るもの好感です。

富永美祥 師範
強弱の激しい線と
遅速の変化の大き
さから、多種の味
わいがあります。
原本と規定手本を
よく觀察し、表現
の幅を広げてある
のが素晴らしい。

松田八千代 準六
細かな線の変化を
描きながら、原本
の空氣を伝えてく
れる楽しい作品で
す。軽快さを抑え
る重厚な線を適度
に混ぜていて、静
寂を感じるほどだ。

萬代真規子 師範
全ての線に鋭い切
れがあり、爽快で
健康的な作品です。
字形は原本に忠実
で、線の角度や起
筆と收筆をよく研
究して、完璧に実
践されています。

石崎 勝 準五
起筆の変化を鮮明
に強調しながら、
それぞの文字を
表現過多にならず
に安定させて書き
上げています。今
後も高い技術の作
品が誕生しそうだ。

高志知子 師範
沈着重厚な線が、
重低音のように響
いてきます。紙に
墨が浸透するのを
待つて筆を動かし
てあるような安定
した線が、たくさん
あるって安心です。

佐藤青山 四段
太めの線で字内空
間を密にして、原
本の空氣を強く感
じる忠実な臨書で
す。線の強さ、起
筆の角度等、北魏
の楷書の特徴をし
っかりと表現した。

三輪美美 師範
伸びやかで、透明
度の高い美しさを
持った線の印象度
が高い。柔らかな
大きな腕の動きが、
左払いと縦線に特
に輝きと艶がある。

倉井実可 準三
大きな動きから生
じた魅力的で活発
な線が、紙面に溢
れています。文字
の中心を揃えて行
を組み立てたので、
整頓された美しさ
を保っています。

橋本佳和 準師
澆潤として伸びや
かな鋭い線が、紙
面に活氣をもたら
している。線の質
が作品に大きな影
響を与え、その線
を引くための心が
必要というお手本。

林田粹蘭 二段
明るく爽快な線に
若さが溢れている。
文字が大きく見え
るので、腕の動き
が理想の大きさで
柔らかいようだ。
高度な才能を感じ、
期待しています。

平子久美 八段
起筆の強韌さが目
を引く。その起筆
の力をそのまま使
った線には、破壊
力がある。少しだ
けある軽快な渴筆
が、作品に大きな
変化をつけています。